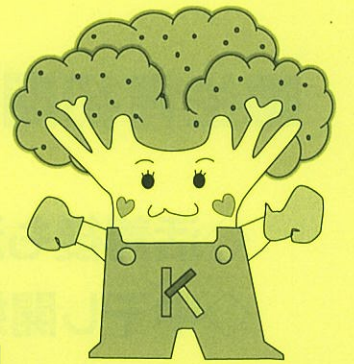




活着後は浅水管理で初期生育確保!!

田植え後の水管理

●田植え後5日間
程度深水管理

●除草剤散布時は
十分水を入れる

●日中浅水管理とし水温・地温
の上昇を図る

深水(3~5cm)

浅水(1~2cm)

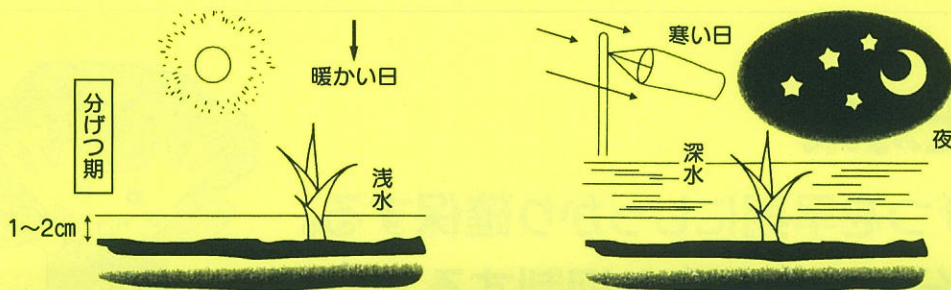
4月下旬

5月

6月

- ①活着後は、日中1~2cmの浅水管理とし、初期分げつを早く確保する。ただし風の強い日や低温の日等天気の良い日は、苗が水没しない程度の深水管理とする。
- ②中干しまでに田干しを2~3回行い、ガス抜きをし、根の張りを良くする。
水の溜めっぱなしは、藻やガスの発生原因となります。
- ③6月初めには、「中干し」や「間断通水」をしやすいするため、溝切りを必ず実施する。

① 晴天日の浅水管理で初期分げつを早く確保!

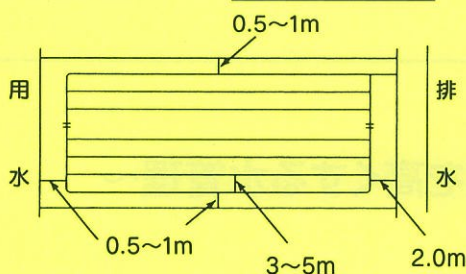


② 田干しによるガス抜きをしよう!

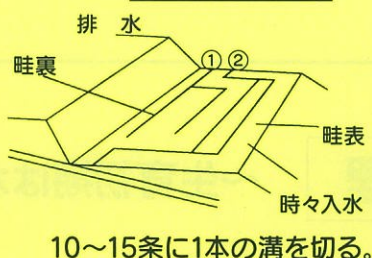


③ 〈溝切りの例〉

平坦地の場合



谷田の場合



※ガス抜きについて

- 有機物を施用した圃場や湿田では5月中旬以降、地温の上昇にともない有機物の分解が進み、ガスが発生しやすくなり、根腐れの原因となります。ガスが発生している圃場では、晴天時に田干しを実施し、ガス抜きをする必要があります。
- 特に、除草剤(中期剤)の散布前には必ずガス抜きを実施してください。

残ったヒエに対しては、ヒエクリーン1キロ粒剤を1kg/10a 田植え後15日~ノビエ4葉期まで(収穫45日前まで)

◎補植用の苗を放置しておくと、葉いもちの発生源となるので、早急に処分すること。

■初期害虫防除(随時防除)

病虫害名	防除時期	薬剤名	散布量	備考
イネミズゾウムシ	5月中旬~下旬	トレボン粒剤	2~3kg/10a	晴天時に 湛水状態で 散布する
イネドロオイムシ	6月10日前後	トレボン粒剤	2~3kg/10a	
ニカメイチュウ第1世代	6月上旬~中旬	パダン粒剤4	3~4kg/10a	

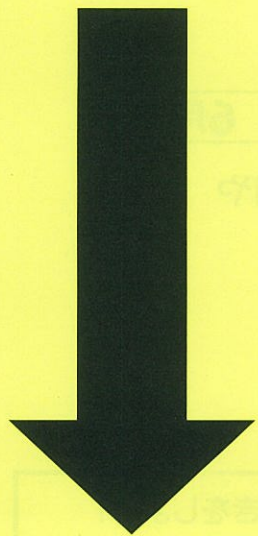
■生育初期の水管理ポイント

活着後の浅水管理と田干しの実施

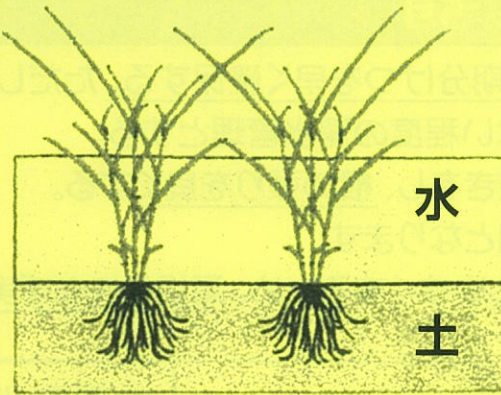
◇活着後も深水管理を継続すると、初期分げつの発生が遅れます。

◇中干し開始が遅れると、遅発分げつの発生を抑制できません。

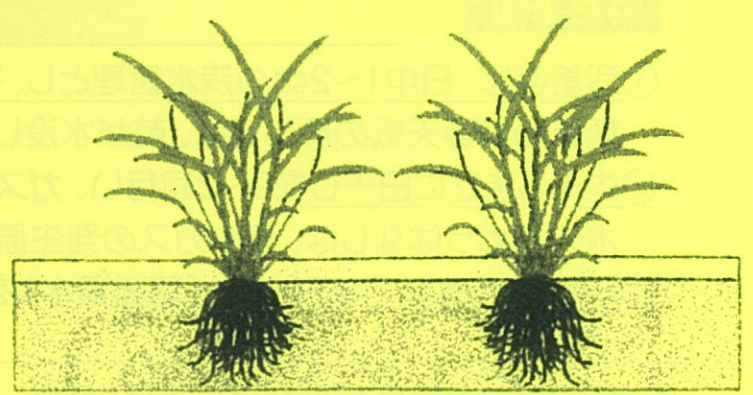
遅発分げつの増加による弱小穂の増加は、登熟能力が弱い穂を増加させることになり、乳白粒や未熟粒の発生に繋がります。



× 深水管理



○ 浅水管理



●乳白粒・未熟粒の発生防止対策

1. 活着後の浅水管理で有効分げつを早期にしっかり確保する。

2. 適期に中干しを実施し、遅発分げつの発生を抑制する。



初期生育を促進する水管理

～生育初期は水温を高くする水管理～

①活着後は浅水管理をし、水温・地温の上昇を図る。

②減水深を考慮して湛水量を決め、日中の気温上昇時に湛水状態になるように管理する。
(日中に田面水があるかないかの状態になると気化熱で地温が低下する。)

③天候の良い日は軽い田干しをしてガス抜きをし、根の活力を高める。

